

特集
 生き物たちの楽園
 宮浦池ワールド

皆さん、宮浦池ってどんな池か知っていますか。本郷町の加茂農林高等学校南側にある宮浦池は、約20年前に利水を目的として造られた、市街地の中にある自然豊かな池です。池の周囲は木々に囲まれ、数多くの鳥が飛来し、池には、今の時代には珍しくブラックバスやブルーギルなどの外来種がいません。宮浦池は、現在「宮浦土地区画整理事業」の中で自然公園として整備が進められています。今回の特集は、この自然豊かな宮浦池の世界を、宮浦池にかかわる人々とともに紹介し、自然を保全していくことの大切さを中心に考えます。

イラスト
 加茂農林高等学校
 生物工学科3年
 小林慶子さん作



整備することになった経緯

市では、平成4年度に宮浦土地区画整理事業が立ち上がった当時から、区画整理事業の公園用地として整備する計画を持っていました。

当初は、「あずまや」を造り、遊歩道を整備する計画もありましたが、加茂農林高等学校から、「自然を保全した形で整備してほしい」という意向があり、極力自然を残す形で整備することになりました。

整備の方針

宮浦池には、池の底に多量の汚泥がたまっており、夏場になると異臭を放ち問題となっています。

そこで今回しゅんせつ工事を行い、水の流れを良くし、また、水位調整ができるように管理施設を整備しました。これにより、水の入れ替えも容易になり、浄化できるようになりました。

このしゅんせつ工事は、加茂農林高等学校自然科学部の調査を生かし、昆虫が産卵する前までに工事を完了させ、生育に影響のないよう配慮しました。また、シヨウブが生えている土手付近の土は、水生生物がそのまま残るよう、極力取り除かないことにしました。



▲桜が満開の宮浦池



▲咲きそろうスイレンの花



▲雪化粧した宮浦池

写真提供：加茂農林高等学校